知りたい よしこ姉ちゃん

愛知遺族代表 足跡探す広島

名簿に姉淑子さんの名前を見つける愛知県遺族代表の丹羽洋子さん＝6日午前、広島市で

姉の淑子さん＝洋子さん提供

愛知県の遺族代表として、六日の平和記念式典に出席した愛知県岩倉市の丹羽洋子さん(七三)は、原爆慰霊碑の前で姉淑子(よしこ)さん＝当時(一三)＝の冥福を祈ることのほかに、広島を訪れた目的がもう一つあった。姉が学校でどう過ごし、どんな最期を遂げたのか―。手掛かりを探すことだ。

五人きょうだいの末っ子に生まれ、原爆投下時は二歳だった丹羽さんに、姉の淑子さんの記憶はない。当時、上の兄や姉らは既に成人して家を出るなどしており、淑子さんが幼い丹羽さんの世話をよくしてくれたと聞いた。

淑子さんは、広島市内にあった山中高等女学校の学徒動員で作業に出掛け、被爆した。父が救護所にいたのを見つけ連れ帰ったが、淑子さんの顔は水膨れになり二日後に亡くなった。

父も母も、姉の話になると口をつぐんだ。後に母親から聞いた話では、原爆投下の前日、淑子さんには熱があった。だが父は「作業を休めば非国民と言われるから」と、翌日の作業に姉を送り出した。丹羽さんは「それが父の負い目になっていた」と考えている。

最近になり被爆体験を語り始めた丹羽さんは、姉のことを知りたいとの思いがより強くなった。式典前夜の五日、遺族代表の会合で、姉がいた当時の女学校の教師だった男性（故人）の親族と出会い、惨状を少しだけ聞くことができた。

六日午前、姉の名前が刻まれた平和記念公園の慰霊碑に手を合わせた。「お姉さんが平和を願って、引き寄せてくれたのかな」と感じている。これからも姉の足跡を探すつもりだ。

（安福晋一郎）